




## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人エンハンスネイチャー 荒川・江川	実施日	H23.5月～H24.2月（計14回）
代表者	小川 早枝子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープ市民参加型 環境管理活動		
活動目的	荒川とその支流の江川を中心とした生態系保全・再生に関する調査・研究、試験活動や環境管理活動を継続的に行っている。		
活動内容	<p>1989年、上尾市自然環境調査により三ツ又沼の自然環境の貴重性がわかり、1990年より環境団体が荒川上流河川事務所に保全を働きかけた。</p> <p>1994年、国と市民団体によるパートナーシップにより、ビオトープ設立にむけて協働。</p> <p>2001年、三ツ又沼ビオトープオープンとなり、市民参加型環境管理活動開始。</p> <p>具体的には、草刈り、草運び出し、外来植物の駆除、学校や市民への環境教育等を行っている。</p>		
	 		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンノキ広場では、外来種が生育する前の春から取組み、数年の努力で外来植物が減って「クサフジ」などの在来植物の自生が確認された。</li> <li>・昨年⑦ゾーンの桑を伐採して、柳林を再生する作業を行う。目標通り在来の「アカメヤナギ」の自生地に変えることができた。</li> </ul>		
	 		
	<p style="text-align: center;">ヨシ刈りと運び出し</p> <p style="text-align: center;">助成金で購入した用具</p>		
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレチウリの駆除作業。他団体と協働で、ハンノキ広場と③ゾーン希少種自生地に広がってしまったアレチウリを徹底的に抜いた。しかし、すでに結実していたので、作業を行った人々に被害が出た。来年度は芽生えから抜き取り作業を行うことにしたい。</li> <li>・希少種保護のため2月に野焼きを行ったが、直前に霜が降りよく焼けなかった。今後対策を検討をしていきたい。</li> </ul>		
最終助成決定額	197,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	おさかなポストの会	実施日	H23. 7/9、12/6
代表者	山崎 充哲	活動場所	入間川
タイトル	入間川の生態系を崩す外来魚の実態基礎調査		
活動目的	現在深刻化してきている入間川での外来魚問題の現状を把握するための調査を行い、外来魚問題に取り組むための基礎データを作成すると共に、入間川流域の市民を含む多くの方に周知してもらう。		
活動内容	<p>入間川にて、外来魚の種数や食物連鎖等の、具体的な現状を把握する基礎調査を実施する。          実施期間：夏・冬の 2 日間の外来魚調査          実施場所：入間川（角泉入間川支流～関越自動車道間の 8 地点）          調査内容：水温、気温、数量、種数、調査現場と外来魚の写真、胃内容物等          調査方法：目視調査、投網・釣り・タモ網による捕獲調査          啓発活動：全国川の日ワークショップに参加し、調査結果を多くの人に報告する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>〈調査結果〉          捕獲数：スモールマウスバス 17 個体          胃内容物：アユ 3 個体、オイカワ 2 個体、          モツゴ 2 個体、ウグイ 1 個体、          ヨシノボリ類 1 個体、ヤゴ 1 個体、          判別不能 1 個体、空胃 6 個体</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <p>スモールマウスバスは在来種を捕食していることがわかる。スモールマウスバスを確認した地点では、大型のコイを確認した程度で、他の在来魚を確認できなかったため、スモールマウスバスが在来種の住処を奪っていると考えられる。</p>		
今後の改善点	調査時に入間川で出会った市民には、聞き取り調査を行うと共に外来魚問題の現状を伝えることが出来たが、それ以外の流域に住む市民への情報発信が出来なかった。		
最終助成決定額	109,320円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

# 平成23年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人はとやま環境フォーラム	実施日	H23.4月～H24.1月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	唐沢川、鳩川、越辺川
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	<p>鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅が造成され、町内に4つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的にモニタリングすることを通して、多様な生態系の再生により安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうことを目的としている。</p>		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■植生調査</li> <li>■水生生物調査</li> <li>■親子地曳網体験調査</li> <li>■残留農薬分析調査</li> <li>■エコ図書館の運営</li> <li>■広報紙発行</li> </ul> <p style="text-align: right;">等々</p>	 <p>←植生調査</p>	 <p>↓親子地曳網体験</p>
活動の成果	<p>赤外線カメラによる中大型ほ乳類調査により、活動エリアの「石坂の森」で害獣のシカの生息が初めて確認され、町役場に報告した。また、私たちの独自発注の残留農薬分析で町内ゴルフ場排水路から、発がん性の疑いの濃いメタラキシル成分の微量流出が続いていることが確認され、農薬の微量流出の実態が徐々に分かってきている。唐沢川中流域でのホトケドジョウの生息状況が複数年にわたり把握されつつあり、保全対策立案のための基礎データが蓄積されてきた。</p> <p>いずれも、広報紙「フォーラムNEWS」とHPに掲載し、地域住民に情報提供と環境保全への啓蒙に努めている。</p>	 <p>モニタリングサイト1000現地調査 人為的インパ外調査 鳩山町石坂地区の植生図</p> <p>作成：はとやま環境フォーラム</p> <p>7月9日 唐沢川流域の現地調査</p> <p>石坂ゴルフ倶楽部</p> <p>鳩山ニュータウン</p> <p>1 商業広葉樹林 2 針葉樹林 3 落葉樹・針葉樹混交林 4 落葉樹・竹混交林 5 針葉樹・竹混交林 6 常緑樹・竹混交林 7 竹林 8 雑草林 9 乾性草地 10 乾性草地(ヤササ) 11 湿性草地 12 洋菜地 13 藪草地 14 果樹園 15 田 16 雑草地 17 藪草地</p>	
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	196,000円		



※各団体からの活動完了報告書を元に作成

## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川の自然を守る会	実施日	H23.4月～H24.2月（計41回）
代表者	木ノ内 勝平	活動場所	荒川 ミツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セイタカアワダチソウなどの外来種の駆除やアシ刈りの実施</li> <li>・ミツ又沼ビオトープの定点調査、自然観察会の実施</li> <li>・上尾市平方地区環境フェスティバルや野草サミットで広報活動</li> </ul>		
活動目的	ミツ又沼ビオトープの自然管理作業と多くの方に自然に親しんでもらうための観察会、調査会の開催。		
活動内容	<p><b>① 観察会・自然管理作業</b> 4月～11月は帰化植物退治、12月、1月、2月は希少植物の生育環境を守るためのアシ刈りを実施した。</p> <p><b>② イベントへの参加</b> 上尾市の環境センターで毎年行われている環境フェスティバルに参加し、ミツ又沼ビオトープについて紹介するとともに、身の回りの自然についても知って頂くために、パネル展示、ミツ又沼ビオトープの管理作業で得られたツルでリース作りなどを行った。実行委員として参加している「野草サミット」では、パネル展示と活動発表を行い、荒川の自然の特性と重要性をアピールした。</p>		
活動の成果	<p>参加者にとって観察会と管理作業を同時に実施することで、自然の理解と管理作業の意義を理解してもらうために効果的であった。親子自然塾では、ミツ又沼ビオトープの自然を愛して慶んで参加する親子が多い。高齢者の参加は、作業の合間に自然との共生のあり方などをさりげなく聞けることなどがあり有意義であった。多様な年代の参加が自然を守る上でも大切だと感じた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>↑ 企業の方の団体参加</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>竹林の管理作業によって希少種「キツネノカミソリ」が生育 ↓</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑ 子どもたちと紙飛行機飛ばし</p> </div> </div>		
今後の改善点	親子自然塾は、リピーターの方が当日突然参加することがあったので、運営面でやりにくさを感じた。今後、対応策を考える必要がある。		
最終助成決定額	200,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川流域ネットワーク	実施日	H23.4月～H24.3月
代表者	恵 小百合	活動場所	入間川、都幾川、越辺川
タイトル	入間川水系 アユ溯上作戦		
活動目的	入間川水系において東京湾から天然遡上するアユが成魚の生息域である上流域まで天然遡上できる河川環境の復活を目指す。また、アユの天然遡上を通じ、恵み豊かな川、川文化、地域活性を目指す。		
活動内容	<p>① 調査 入間川・都幾川・越辺川の3カ所で稚アユのアブラビレを切除し、各河川に放流して、流域にある取水堰等の溯上環境を投網や友釣、地引網により調査する。</p> <p>② 親子連れを対象としたイベント 多くの人に川遊びを兼ね、調査を行ってもらうために、親子連れを対象にした地引網漁のイベントを開催する。</p> <p>③ シンポジウムの開催 各河川での調査結果を冊子のまとめ、流域の環境団体に結果報告を行うシンポジウムを開催する。</p>		
活動の成果	<p><b>【調査結果】</b> 入間川・都幾川・越辺川の3カ所で合計9,254尾の稚アユのアブラビレを切除し、放流。 調査回数：43回、参加人数：351人、標識アユの捕獲数：33尾（回収率0.33%）</p> <p><b>【イベント】</b> 開催日：H23.4/17、7/24、8/13 参加人数：合計84人 標識放流調査を行うことで、入間川・越辺川水系の溯上環境について流域の多くの人や関係機関に目を向けてもらうことができた。活動も3年目を迎え、漁協との連携を深めることができ、さらに埼玉県が始めた「川の再生事業」に繋げることができた。 23年度は、台風による増水の期間が多く、思うように調査回数を確保できなかったが、反面アユ釣りの愛好家とのネットワークもでき、標識アユ捕獲の情報提供も次第に増えてきた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲親子での地引網体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲稚アユのアブラビレ切除作業</p> </div> </div>		
今後の改善点	さらに上流部の調査を実施するとともに、調査結果を改善に繋げていくための具体的な施策や活動を進めていく必要がある。		
最終助成決定額	198,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	H23. 4/1～H24. 3/1 まで
代表者	三浦 輝夫	活動場所	高麗川
タイトル	県下有数の清流である高麗川の良い水辺環境を保全する活動を推進する		
活動目的	高麗川の良い水辺環境を将来の自然に引き継いで行くことを目的とし、行政との協働のなかで様々な活動を推進していく。		
活動内容	<p>主な活動としては、環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の7文科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の清掃活動（毎月）、植生及び野鳥観察会、小学生を対象とした水の中の生き物調べ、高麗川に関連する写真展、こまがわニュースの発行などを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>広報誌発送のようす</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>清掃活動のようす</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>学童支援の「水の中の生き物調べ」は、広報やホームページで周知した結果、市外の方も参加するなど、広く地域交流が行えたとともに、河川環境保護の意識啓発が図れた。</p> <p>今後は、関係団体との更なる連携を図りながら河川環境保全を行いつつ、写真展や野鳥調査、植生観察会などを通じ、より多くの方が親しみを持てるような活動を行っていききたい。</p> <div style="text-align: right;">  <p>水質浄化活動のようす</p> </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	湿地の植物を大切にする会	実施日	H23.5月～H24.2月（全10回）
代表者	藤井 悦子	活動場所	荒川
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境保全作業		
活動目的	生物多様性に富む自然を再生・保全し、次世代へ残していく。		
活動内容	<p>① <b>外来植物の駆除</b>            セイタカアワダチソウやオオブタクサを始め、近年猛威をふるっているアレチウリほか多様な外来植物を駆除し、在来種の再生・保全をはかる。</p> <p>② <b>ヨシ刈り</b>            ヨシ原に生育している希少種保全のため、冬にヨシの刈取り、運び出しを行い、地面に太陽が十分当たるようにする。今冬は、一部野焼きを試みるということで、防火帯づくり等火入れの準備を行った。</p> <p>③ <b>クワの伐採</b>            増え過ぎたクワを伐採して、ヤナギ林や湿地環境の保全を行う。</p>	 	
活動の成果	<p>2001年4月に三ツ又沼ビオトープがオープンして以来、外来植物駆除作業を続けてきて、在来種が再生してきたことは事実である。特に、ヨシ原の希少種保全については、年々分布を拡大しており、活動の成果が見られる。</p>		
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年は外来種の種類も増え、古くからあるハルジオンなどの多年生の外来植物も先が見えない状況である。そのため、今後は駆除のやり方を工夫する必要がある。</li> <li>・アレチウリについては、実がならないうちに駆除することが求められるが、棘があるため作業も大変になる。</li> </ul>		
最終助成決定額	18,965円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成



## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企郡川島町立 出丸小学校	実施日	H23. 7/6、10/12、12/7、H24. 2/14
代表者	中島 豊吉	活動場所	荒川 ミツ又沼ビオトープ
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	ミツ又沼ビオトープに生育するハンノキは、ミドリシジミの繁殖樹であり、ハンノキが増えることによって、ミドリシジミも増え、豊かな自然の生態系が再生していくことを願う。		
活動内容	<p>「荒川の自然再生」をテーマに、5、6年生の総合的な学習の時間に授業の一環として取り組んでいる。学校近郊の荒川の河川敷にあるミツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察や、ハンノキの苗木の植栽と種の採集などの活動を、あらかわ市民環境サポーターの皆さんの支援を頂きながら定期的に行っている。秋から冬にかけて、ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を学校のプランターに植え、芽が出て苗木が育っていくと一本一本を鉢に植え替えて、2年間育てる。幹が直径3cmほどに育つと、またビオトープ周辺に植え戻す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>観察会のようす</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ハンノキの種を植える</p> </div> </div>		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地であるいは教室で、あらかわ市民環境サポーターの方々に指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解を体験に基づき確かなものにしてきている。</li> <li>・種から2年かけて育てたハンノキの苗をビオトープ周辺に植栽したり、苗木の周辺の下草を刈りたいという自然再生の本格的な活動を体験し、環境保護意識を高めることができた。</li> <li>・苗木を育てるには、数年という長い期間が必要なため、水やりや植え替え、肥料の管理など多くの手間をかけなければ、植え戻しができるまで大きくすることはできない。しかし、2年たって苗木の植え戻しができたときの達成感・充実感は格別である。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	89,624円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成



## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	駿河台大学 現代文化学部	実施日	H23. 10/9、10/24				
代表者	吉田 邦久	活動場所	入間川				
タイトル	生態系を守れ！外来魚駆除 in 入間川						
活動目的	外来種の侵入とその問題点について、学生が駆除という実体験することにより、身近な地域から世界的視野で環境問題をとらえるきっかけとし、また地域の環境保全の必要性を考えるきっかけとする。						
活動内容	<p>入間川の生態系とその環境を学んだ上で、実際に現場に出て外来魚種の駆除を行っている方に習いつつ、刺網、地引網、投網、を使用して捕獲駆除を行う。そして、身近な地域で起こって環境問題を考えてもらう。捕獲した外来魚は廃棄処分ではなく、調理して食し、命の尊さを学ぶ。後日、参加学生に体験記を書かせ、本事業の評価と広報を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>駆除の様子：地引網を張っている</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>駆除方法について指導を受ける</p> </div> </div>						
活動の成果	<p>地域の環境保全への意識の向上がみられた。捕獲した外来魚を見て驚き、また、河岸に散乱するゴミの現状をみて、事後に河川清掃のボランティアに参加する学生もみられた。捕獲中は、地域の方々が見学する姿があった。</p> <p>参加学生の中で、駆除したブラックバスを有効活用するために、「飯能プランニングコンテスト」に応募する者がいた。</p> <p>学生が行う環境保全活動を見せたことは、「地域の大学」としての理解を醸成する効果もあったと想定され、今後も継続して活動していきたい。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>■外来魚（コクチバス）捕獲数</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>10月9日</td> <td>9匹</td> </tr> <tr> <td>10月24日</td> <td>5匹</td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>			10月9日	9匹	10月24日	5匹
10月9日	9匹						
10月24日	5匹						
今後の改善点	<p>昨年の反省から当初 8、9 月に 1 度ずつ 2 度の駆除作業を予定していたが、天候不順・増水により 2 度とも延期せざるを得なくなり、また設定していた延期の日程も台風の襲来等で更なる延期をしたため、結局、実施日が 10 月にずれ込んでしまった。天候不順による延期等も考慮しながら、よりよい方策を立てていきたいと考える。</p>						
最終助成決定額	195,872円						

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

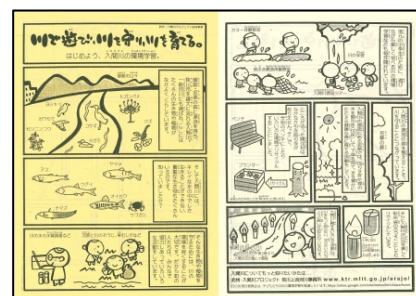
## 平成23年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	H23. 7/23、12/11、H24. 1/6
代表者	大友 広子	活動場所	荒川 ミツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川敷の植物を使った草木染教室（会員の研修）</li> <li>・自然観察会と染色材料採集の会</li> <li>・公民館での染色教室（一般対象）</li> <li>・山なみ観察会と七草採り、七草粥</li> </ul>		
活動目的	<p>荒川の自然を守る会と共に、自然塾や観察会の企画運営を行い、多くの親子の自然体験をサポートしてきた。さらに身近な自然の豊かさを PR し、地域の自然を見直してもらうことを目的としている。</p>		
活動内容	<p>① <b>草木染教室</b>          &lt;会員対象&gt;          コチニール、アレチマツヨイグサ、カリヤスを使用して板染めと絞り染めを行った。          &lt;一般対象&gt;          染色材料（ハンノキの実・アカネ）をミツ又沼ビオトープで採集し、平方公民館にて草木染めを行った。</p> <p>② <b>観察会・七草採り、七草粥づくり</b>          観察会を行ったあと、自分たちで七草を摘み、七草粥を食した。</p>		
活動の成果	<p>●7/23 観察会・草木染（会員研修）：参加者 18 名          会員研修もかねて、夏休みの子どもたちを対象に実施した。草木染の出来と、参加者の反応から、今後も草木染を取り入れることに確信が持てた。</p> <p>●12/11 自然塾 野草を使った草木染（一般対象）：参加者 18 名          調理室の広さを考えると、この人数が最適であった。草木染に使用する材料は、コチニールやインドアカネが馴染みやすいことが分かった。</p> <p>●1/6 山なみ観察会・七草摘みとアシ刈り・七草粥：参加者 12 名          参加者の中には、七草を摘んだのは初めてという方も多く、とても喜んでいて。最近では、七草を揃えるのも厳しく、その訳や昔の「野菜」の意味などを話すと、参加者は大変興味を持ってくれた。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	200,000円		



## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	灯の川 2011 実行委員会	実施日	H23. 7/1、7/8、7/16、9/19、10/7、10/9、12/2
代表者	鈴木 英有	活動場所	入間川
タイトル	灯の川 2011		
活動目的	川を水源地から、流域全体の一つのものとして捉え、河川全体の社会的共生、環境共生を図る環境啓発事業として、小学校の川を巡る環境学習、河川の美化活動などを推進する。		
活動内容	<p>① <b>入間川小環境学習の推進</b>  入間川小、入間川東小の総合学習の時間で、カヌー教室、魚類調査、鳥類調査、水生昆虫、岩石調査、水質調査などの指導を行う。本年度は笹井小からも依頼があり広がりを見せた。</p> <p>② <b>河川美化活動</b>  入間川右岸の清掃活動を通し、狭山市の中心市街地と河川の回遊性を図る。周辺自治会関係者や子供たちとゴミ拾いや草刈りを行った。</p> <p>③ <b>灯の川 2011</b>  水源地林の間伐材を利用した環境啓発事業。間伐材を川に並べ、「森のろうそく」として灯す。イベントを通じ、入間川流域全体としての社会的共生や環境保全の大切さ、間伐材の利活用に理解を求めた。</p>		
活動の成果	<p>環境学習については、小学校、及び狭山市の協力もあり、年間を通じて入間川の環境学習を行った。子供たちの学習発表会は、各校4年生がそれぞれグループに分かれ、パソコンを使ったり、人形劇やクイズ方式で3年生や保護者に発表した。</p> <p>河川の美化活動は、今年は5回計画し3回雨にみまわれ、回数ができなかった事が残念である。環境啓発事業は、狭山市、商工会議所、観光協会、周辺自治会、企業の協力も多数いただき、灯の川 2011 として開催した。昨年の 6400 名を超える 8000 名の参加者を得、また、NHK、狭山ケーブルテレビ、FM 茶笛等の放送局にも取り上げられ話題を提供した。いずれの事業についても武州プロジェクトの補助金を活用した子どもに向けたイラストビラが大きな反響を呼び、新たな講師依頼や協力の申し出があるなど効果があった。</p>		
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織強化</li> <li>・さらなる担い手作り</li> </ul>		
最終助成決定額	110,000円		



配布したビラ



## 平成 23 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	毛呂山町岡本団地 自主防災防犯部	実施日	H23.5月(5回)、6月(3回)、7月(3回)
代表者	平林 重利	活動場所	越辺川
タイトル	越辺川、桜広場の保全と管理		
活動目的	岡本団地は越辺川と大谷木川の近くにあり、自然が多く鳥も数多く飛来してくるので、鳥や動物などにもすみやすい環境をつくる。		
活動内容	<p>・ <b>草刈り・ゴミ拾い</b> 鳥などが生息する藪はゴミ拾いを行い、住民がレクリエーション等で利用する広場は草刈りとゴミ拾いを行う。(草刈りには、除草剤等は使用せずすべて手作業で行う。)</p> <p>・ <b>植樹後の管理</b> 2年前に地域で集めたどんぐりから苗を育て、子供たちと一緒に記念植樹(15本)を行った。現在は、植樹した木を引き続き育てている。今後も、子どもたちと一緒に地域の植物などを育てる活動を計画しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">ゴミ拾いのようす</p>		
活動の成果	<p>・ 活動を通して地域住民とのふれあいの場がもてるようになった。 ただ、参加者も高齢化しているので、もっと若者が参加できるようにしたい。</p> <p>・ 今年6月に広場でイベントを計画しているので、その際に河川環境学習も行いたいと思う。</p> <div style="text-align: center;">  </div>		
今後の改善点	<p>・ 現在は、川床が高くなり砂利がたまって水も少なくなっているため、魚があまりいない。 今後の活動の中で、河川環境の改善に努め、魚の棲みやすい環境づくりを進めていくことが課題である。</p>		
最終助成決定額	50,602円		